

## 2学期制の成果を披露

### 第1回須恵町子ども文化発表会

第1回須恵町子ども文化発表会（須恵町立小・中学校、須恵町教育委員会主催）が、12月20日（水）にアザレアホール須恵で行われました。

これは、本町が2学期制を導入して3年目を迎え、ゆとりの時間の成果を小中学校が一堂に会して発表し、町民のみなさんに学校の現状を知ってもらうことを目的に行われたものです。

発表会は、小学校5、6年生と中学生が中心に出演しました。主な内容は、小学生による合唱や楽器演奏、小中学生による総合学習の報告や弁論、



第一小学校4年生による「須恵町クリーン大作戦」の発表



力強い意見発表



絵画などの展示コーナー

意見発表などがあり、多彩な発表会となりました。なかでも意見発表はどの学校からでも「いじめ」をみんなの力でなくすための、強いメッセージが呼びかけられました。ここで発表を行なった、第三小学校6年生の内野匡博くん作品を紹介しましょう。

## いじめの無い未来を目指して

須恵第三小学校6年2組 内野匡博

「いじめ」。この三文字のように、いじめには三つの悪いところがあると私は思います。

まず、一つ目は、友だちをいじめる人は、ただ友だち同士の間でゲームとしか思っていないということなんです。

そのゲームもブレイキがきかず、日々エスカレートしていき、取り返しのつかないことになってしまふんだと思います。

では、なぜ友だち同士の間でゲームとしか思っていないんでしょうか。



うか。それは、いじめられている人が抵抗しないし、笑っているときもあるから、いじめる人は、いつも鬼の決まっている鬼ごっこみたい、くらいにしか考えていないからだと思います。

次に、二つ目は、いじめに関係あるのは、いじめている人といじめられている人だけだ、と思っていることだと思います。

ぼくは、いじめている人といじめられている人だけでなく、見て見ぬふりをしている人たちも関係していると思います。

「ぼくは、してないけん関係ない」と思わず、「やめた方がいいよ」といつてくれる人が増えてくると、もつといじめは減るし、いじめで命を失う人たちも、もつともつと減っていくと思います。

周りの人たちも他人のこととは思わず、自分のことにまず置き換えて、気づいて・考えて・実行していかなければならないと思います。

最後に、三つ目は、いじめられている人が誰にも相談できないということなんです。

家族、友だち、先生、近所の人など、周りには自分がいじめられていることを話せる人や、自分の気持ちを分かってくれる人はきつといると思います。悩みを相談し、自分はず何をするればいいのかを、いっしょに考えたほうがいいと思います。そうすれば、「死んでしまおう」と思うことはないと思います。

今、自殺をする人たちがたくさんいます。ゲームをしている人が多いせいか、死んでしまっても、もう一度生き返ると思っている人がいるそうです。人はたった一つしか命はない、このたった一つの命を大切にしようという、呼びかけが必要だと思います。そして、人に相談しながら、自分と向き合うことによつて解決方法が出てくると思います。

世界はつながっている。人は一人じゃない。みんなみんな一つの長い糸でつながっている。生き物はみんな仲間であり、助け合いが必要である。

人は一人では生きていけない。そう僕は思います。

だから、この世界から「いじめ」という三文字の言葉がなくなる日が来ればいいなと思います。僕自身も、もし、いじめられたら人をたよるし、人がいじめられていても人ごとと思わず、その人を助けてやりたいです。

21世紀は、若い僕たちがつくっていく時代です。

だから、今からだれとでも仲良く、友だちと一緒に問題を解決できるようにしていきたいです。



## 「早寝・早起き・朝ごはん」運動にご協力を！

須恵町教育委員会では、子どもの正しい生活リズム向上のために、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を進めています。

子どものたちの健やかな成長のためにも、家族そろって、この運動にご協力をお願いします。



小学生は10時  
中学生は11時  
までには寝よう！



早起きして元気に一日を始めよう

朝ごはん

基本的な生活習慣を身につけさせるために、須恵町教育委員会では、**今、ぜひ家庭で取り組んでいただきたい5つのことを提案します。**

- 1、家族からあいさつの輪を広げましょう。**  
人間関係をつくるうえで「あいさつ」と「返事」は重要です。まずは家族で「おはよう」からはじめましょう。
- 2、朝ごはんをしっかり食べましょう。**  
子どもの心身の健康には、望ましい食習慣が大切です。規則正しい生活を送るためにも、「朝ごはんをしっかり食べる」という習慣を身につけましょう。
- 3、家族一人ひとりの役割を決めましょう。**  
家庭の手伝いは、家族の会話を増やすとともに、人の役に立つ喜びや自分の存在感を学ぶ機会となります。子どもが頑張ったら、必ずほめましょう。
- 4、テレビやゲームの時間を決めましょう。**  
子どもが無制限にテレビやゲームなどにのめり込まないよう、家庭で時間について決まりを設けることが大切です。
- 5、読書に親しむ環境をつくりましょう。**  
読書は成長の糧、心の栄養素です。子どもが読書に親しむためには、家族で本を楽しんだり、読んだ本の話をしたりすることが効果的です。

